保健室コンピュータ活用グループ研究会

グループ員：中谷　孝子　（緑丘小学校）　篠﨑　葉子　（瑞穂小学校）
升井　嘉澄　（花里小学校）　片山　美奈　（昆陽里小学校）
高吉　有紀子（鈴原小学校）　大西　郁美　（池尻小学校）
松田　弥生　（鴻池小学校）　村井　仁美　（北中学校）
田中　淑子　（天王寺川中学校）
担当指導主事：奥野　隆哉

キーワード：保健室　保健管理ソフトの活用　データ管理　保健指導　健康管理

1　研究テーマ

「保健室におけるコンピュータの活用について」

2　研究内容

これまで、コンピュータ(表計算ソフト)を使用して、保健に関する事務処理を行うことにより、保健室の来室児童生徒にゆとりを持って関わる時間の確保及びデータの効率的な活用に取り組んできた。

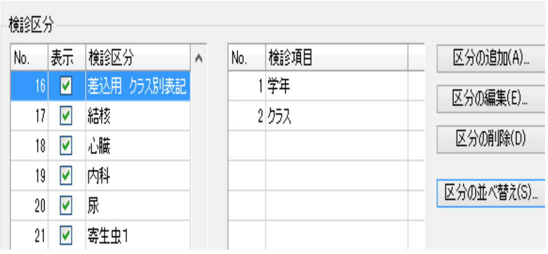
今年度は、市内に導入されているスズキ校務の保健管理ソフトを使用し、健康診断票、健診登録、通知文書など健康診断に関する事務処理を行い、事務処理方法の市内統一に取り組んだ。

(1)　「定期健康診断結果のお知らせ」など治療勧告について伊丹市の様式に添うよう保健管理ソフトの様式を作成した。

(2) 検診項目や検診区分の追加について研修し、伊丹市の健康診断に合わせた所見を入力できるようにした。また、特別支援学級在籍の児童生徒を交流学級表記にするために「差し込み用クラス表記」を作成した。（図１）

(3) 健診結果を「健康診断結果まとめ」（一覧表）に実際に入力し、所見名の項目の見直しや追加を行い、追加の方法や入力の方法を研修した。（図２）

（図１）



（図２）

3　成果と課題

今後は、健康診断の結果入力・治療勧告書の発行だけでなく、児童生徒の健康管理に生かすため、健診結果の集計や統計、アレルギー調査、来室記録等についても健康管理ソフトでの運用を進めることが必要である。また、各校で同じ健康管理ソフトを使用していくことで、異動の際のスムーズな引き継ぎにも有効であると考える。来室する児童生徒との時間の確保や多岐にわたる業務の改善のために、今後もコンピュータを活用し、保健室事務処理を効率よく進めるための研修を積んでいきたい。